

俑の世界

2015年
7月14日(火)―7月26日(日)／
8月4日(火)―8月30日(日)

俑とは墓に副葬するために陶器などで作られた「ひとがた」のことですが、近年の中国では動物や建物などの副葬品も俑と呼んでいます。今回は前漢～唐時代の人物・動物・建造物の俑を中心に展覧します。時代ごとに大きく異なる俑の造形をお楽しみ下さい。

三彩 駱駝 唐時代・8世紀 本館蔵



輸出漆器 桃山～明治

2015年7月14日(火)―7月26日(日)／8月4日(火)―8月30日(日)



花鳥蒔絵螺鈿聖龕 桃山時代・16世紀 個人蔵

日本の輸出漆器を展示します。16世紀の中頃、ポルトガル人宣教師がカトリックの布教のために渡来し、日本からヨーロッパへの漆器の輸出が始まります。キリスト教の祭具、箆(ひつ)や櫃などの調度が蒔絵や螺鈿を用いて制作されました。日本の漆器はヨーロッパの王侯貴族の間で好まれ、その輸出はキリスト教の禁教、鎖国の後もオランダや中国を経由して続けられました。

螺鈿 中国・朝鮮半島・日本

2015年7月14日(火)―7月26日(日)／8月4日(火)―8月30日(日)

鮑や夜光貝を用いた漆器の装飾は中国・朝鮮半島・日本・タイなど東アジアの諸国で盛んに行われていますが、地域や時代によって多彩に発展してきました。ここでは当館の収蔵品とご寄託品のなかから、各地の螺鈿漆器の優品をとりあげてご紹介したいと思います。

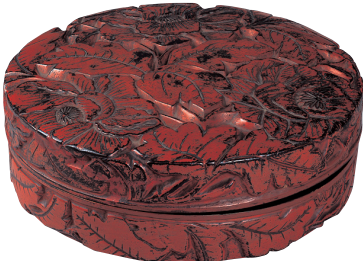


螺鈿 楼閣人物図食籠
明時代・17世紀
本館蔵(カザールコレクション)

堆朱・鎌倉彫・根来

2015年7月14日(火)―7月26日(日)／8月4日(火)―8月30日(日)

朱漆を塗り重ね図を彫り表した「堆朱」、文様を彫り漆を塗った「鎌倉彫」、黒漆を下塗り、朱漆を上塗りした「根来」。ここでは当館ご寄託品から三つの技法の作品を選んで展示いたします。



重要文化財
鎌倉彫(彫木漆塗)牡丹文大香合
室町時代・15世紀 南禅寺蔵

仏教工芸

2015年8月8日(土)―8月30日(日)

仏教で礼拝の対象となる舍利・仏像・経典などを荘厳・供養するための器物は、制作当時の最良の素材と最高の技術、そして最新の意匠が用いられました。このような工芸史を彩る名品のうち、今回は金工品に焦点を当てて展示いたします。夏の一日、仏教工芸の清涼な世界をご堪能ください。

金銅三鈷鈴 鎌倉時代・13世紀
本館蔵(田万コレクション)



沈没船からの贈り物

2015年8月8日(土)―8月30日(日)

ベトナム～東南アジア周辺の海に沈んだ船から引き揚げられた陶磁器を展覧します。ベトナムのホイアン沈没船のベトナム陶磁をはじめ、コンダオ沈没船、ダイアナ号、カーマウ沈没船の中国清代の青花などを陳列します。涼やかな青花の藍色をご堪能下さい。



青花有蓋瓶ほか コンダオ沈没船引揚品 清時代・17世紀 個人蔵

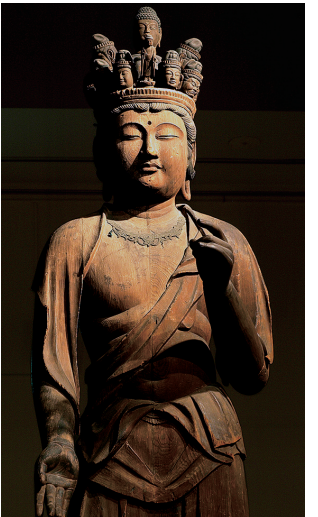
仏教彫刻

2015年8月8日(土)―8月30日(日)／9月12日(土)―11月1日(日)

中国南北朝時代の北魏、西魏(5～6世紀)、および平安、鎌倉、室町時代(9-16世紀)の仏像・神像を一堂に展示します。制作された地域や時代により大きくかわる、「かみほとけのすがた」の移り変わりをぜひ体感してください。



石造 如来三尊像
中国南北朝時代西魏・大統8年(542)
本館蔵(山口コレクション)



木造 十一面観音菩薩立像
鎌倉時代・13世紀
大阪・四天王寺蔵